

令和8年度第1回北栄町介護保険事業計画・高齢者福祉計画策定委員会

日 時 令和8年10月22日（木）

午後1時30分～3時

場 所 北栄町役場大栄庁舎

3階 第1委員会室

日 程

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

（1）第9期計画に係る介護保険事業等の実施状況について〔資料1〕

（2）第10期計画の検討状況について

・在宅介護実態調査〔資料2-1〕、介護保険日常生活ニーズ調査について〔資料2-2〕

・第10期計画について〔資料3〕

4 今後のスケジュール

12月中・下旬 第2回策定員会開催（計画案、介護保険料設定について）

1月上旬～ パブリックコメント

2月中旬 議会全員協議会で説明

3月定例議会に提案

5 閉 会

北栄町介護保険事業計画・高齢者福祉計画策定委員名簿

所 属	役 職	氏 名	備考
北栄町民生児童委員協議会	総務部	小谷 康子	
北栄町社会福祉協議会	会長	大西 孝弘	
北栄町老人クラブ連合会	副会長	日置 栄治	
北栄町女性団体連絡協議会		磯江 華葉	
介護者代表		岩垣 裕子	
医療法人誠医会 宮川医院	医院長	宮川 秀人	
居宅介護支援センター ル・サンテリオン北条	管理者	岩床 淳弘	
北栄町社会福祉協議会	介護支援課長	倉本 恵美	
医療法人誠医会 老人保健施設セラトピア	事務次長	中村 康博	
鳥取県中部総合事務所 県民福祉局福祉課	係長	野間 禎治	
一般公募者		平林 美里	
一般公募者		桑田 紀代	
一般公募者		立石 初子	

委員任期

自：令和7年2月14日

至：令和10年2月13日

= 介護保険事業の実施状況 =

1 介護給付費の推移

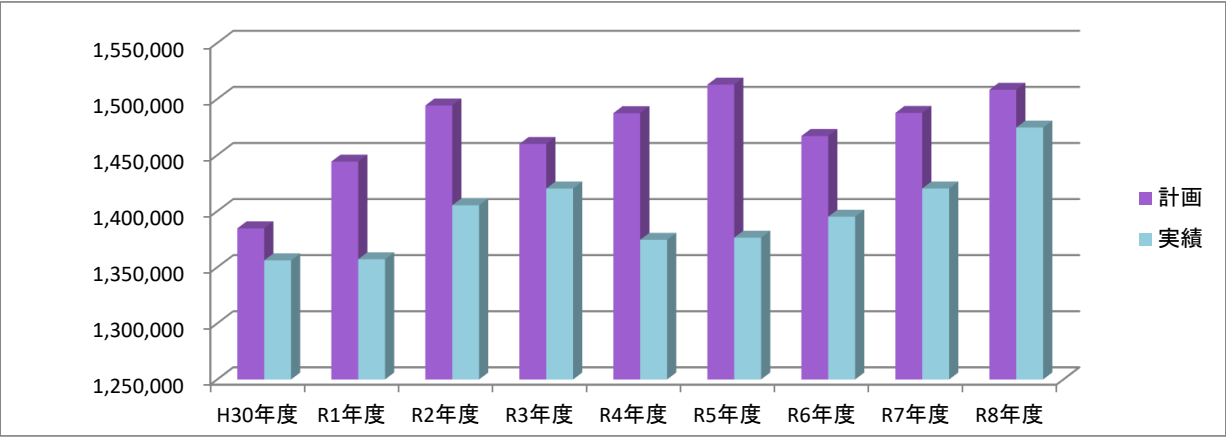
(1) 要介護、要支援別

①介護給付費（要介護1～5）

(単位：千円)

	第7期			第8期			第9期		
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
計画	1,384,720	1,444,252	1,494,273	1,459,979	1,487,436	1,512,907	1,467,082	1,487,655	1,508,267
実績	1,356,208	1,357,180	1,405,314	1,420,224	1,374,505	1,376,436	1,395,122	1,420,249	1,474,580
差引	28,512	87,072	88,959	39,755	112,931	136,471	71,960	67,406	33,687

※令和8年度実績は見込み値

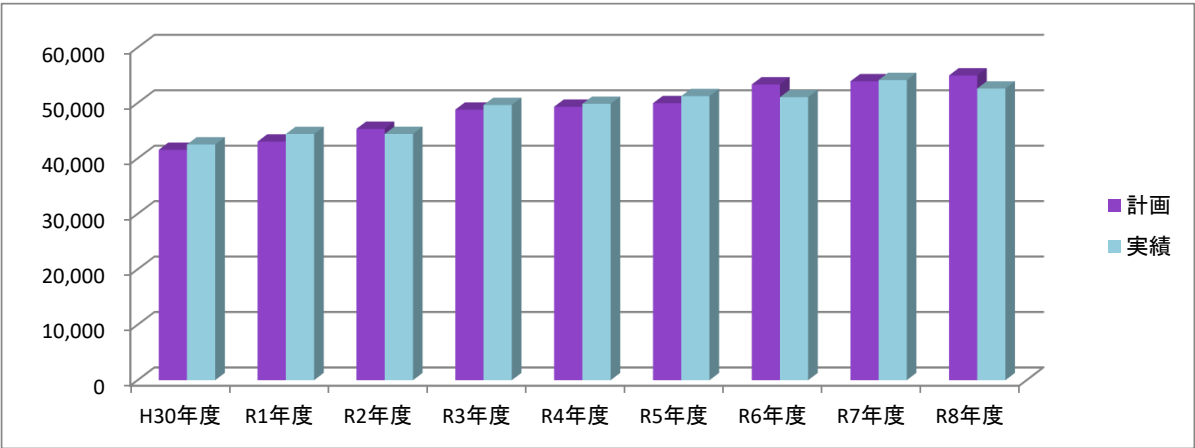


②介護予防給付費（要支援1，2）

(単位：千円)

	第7期			第8期			第9期		
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
計画	41,560	43,044	45,341	48,809	49,331	49,968	53,361	53,924	54,979
実績	42,530	44,412	44,427	49,647	49,854	51,245	51,051	54,142	52,614
差引	△ 970	△ 1,368	914	△ 838	△ 523	△ 1,277	2,310	△ 218	2,365

※令和8年度実績は見込み値



平成28年度より介護予防・日常生活支援総合事業に移行したため、介護予防通所介護、介護予防訪問介護が段階的に移行。

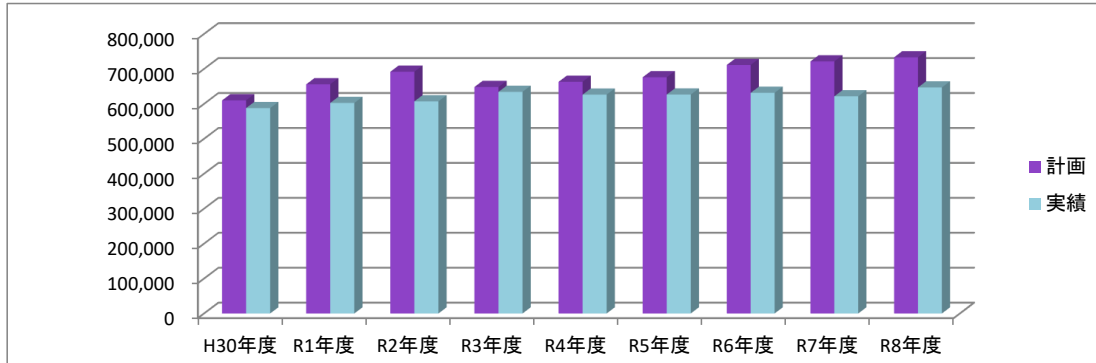
(2) 各サービス別

① 居宅サービス（介護給付・介護予防給付）

(単位：千円)

	第7期			第8期			第9期		
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
計画	610,033	655,922	691,869	648,223	663,109	676,061	711,249	721,449	733,204
実績	587,796	602,513	607,061	634,329	626,432	626,570	631,555	621,555	646,948
差引	22,237	53,409	84,808	13,894	36,677	49,491	79,694	99,894	86,256

※令和8年度実績は見込み値

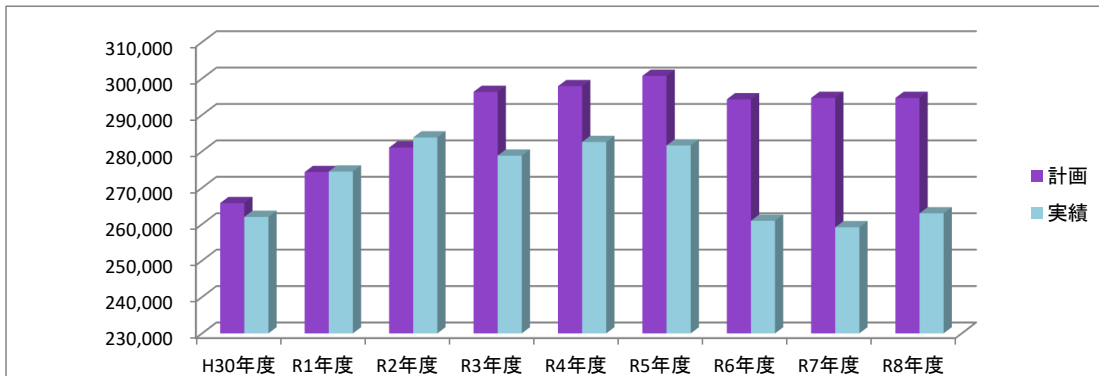


② 地域密着型サービス（介護給付費・介護予防給付）

(単位：千円)

	第7期			第8期			第9期		
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
計画	265,775	274,307	281,036	296,324	297,895	300,726	294,289	294,659	294,659
実績	261,988	274,453	283,805	278,817	282,560	281,612	260,933	259,150	262,968
差引	3,787	△ 146	△ 2,769	17,507	15,335	19,114	33,356	35,509	31,691

※令和8年度実績は見込み値

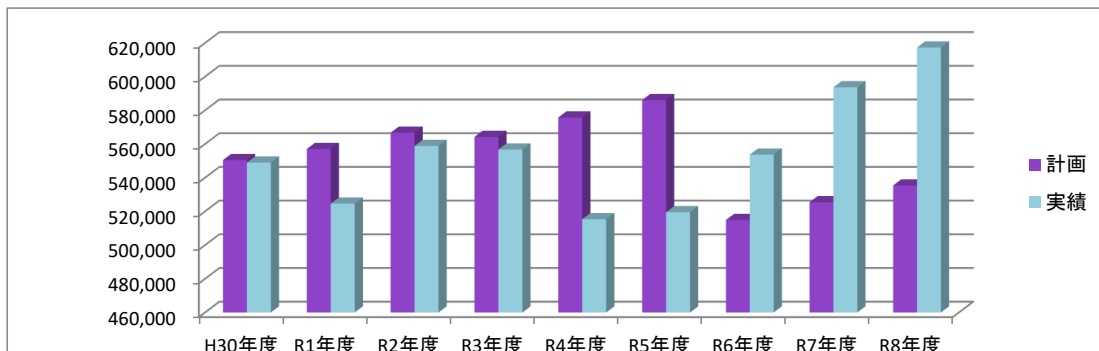


③ 施設サービス（介護給付費）

(単位：千円)

	第7期			第8期			第9期		
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
計画	550,472	557,067	566,709	564,241	575,763	586,088	514,905	525,471	535,383
実績	548,954	524,626	558,875	556,725	515,368	519,500	553,684	593,686	617,279
差引	1,518	32,441	7,834	7,516	60,395	66,588	△ 38,779	△ 68,215	△ 81,896

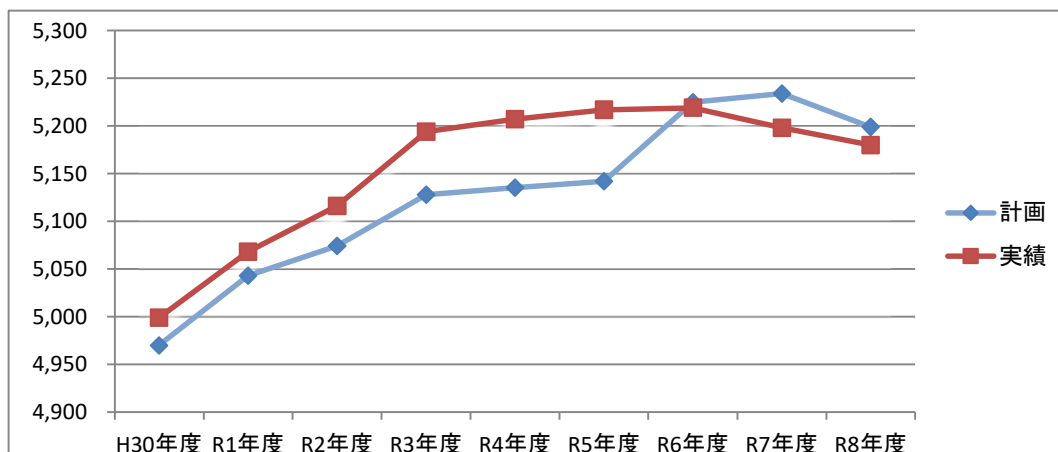
※令和8年度実績は見込み値



2 高齢者（65歳以上人口）の推移（各年度9月末現在）

（単位：人）

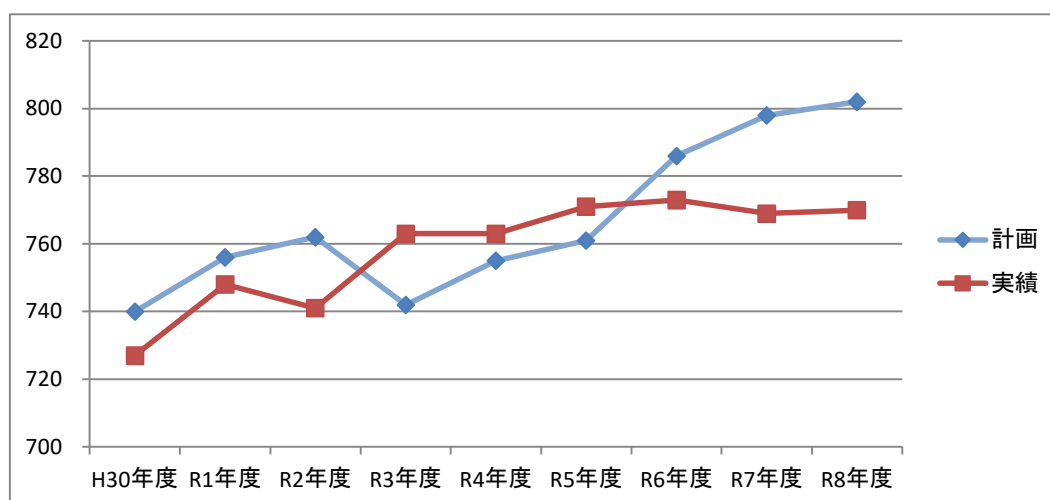
	第7期			第8期			第9期		
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
計画	4,970	5,043	5,074	5,128	5,135	5,142	5,225	5,234	5,199
実績	4,999	5,068	5,116	5,194	5,207	5,217	5,219	5,198	5,180
比較	29	25	42	66	72	75	△ 6	△ 36	△ 19



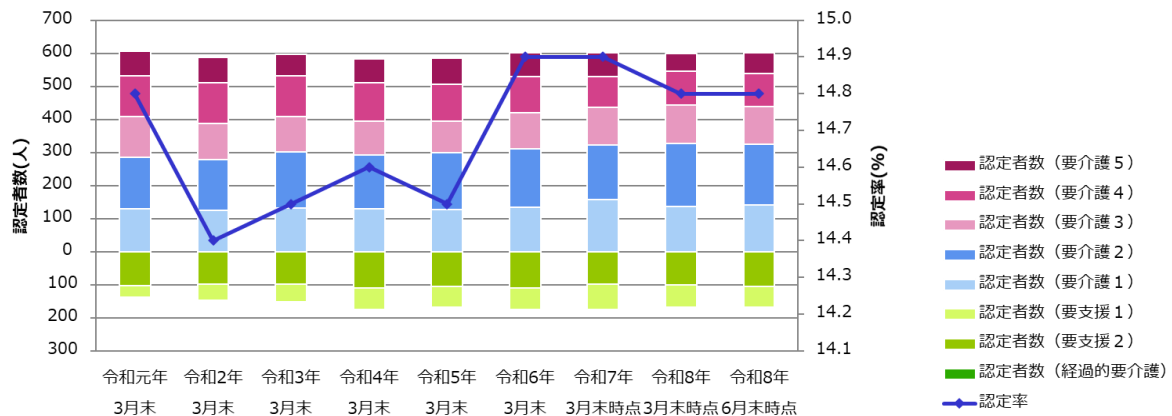
3 要支援・要介護認定者（65歳以上）の推移（各年度9月末現在）

（単位：人）

	第7期			第8期			第9期		
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
計画	740	756	762	742	755	761	786	798	802
実績	727	748	741	763	763	771	773	769	770
比較	△ 13	△ 8	△ 21	21	8	10	△ 13	△ 29	△ 32



北栄町の要介護（要支援）認定者数、要介護（要支援）認定率の推移



（出典）平成30年度から令和5年度：厚生労働省「介護保険事業状況報告（年報）」、令和6年度から令和7年度：「介護保険事業状況報告（3月月報）」、令和8年度：直近の「介護保険事業状況報告（月報）」

4 介護給付費準備基金積立金の推移

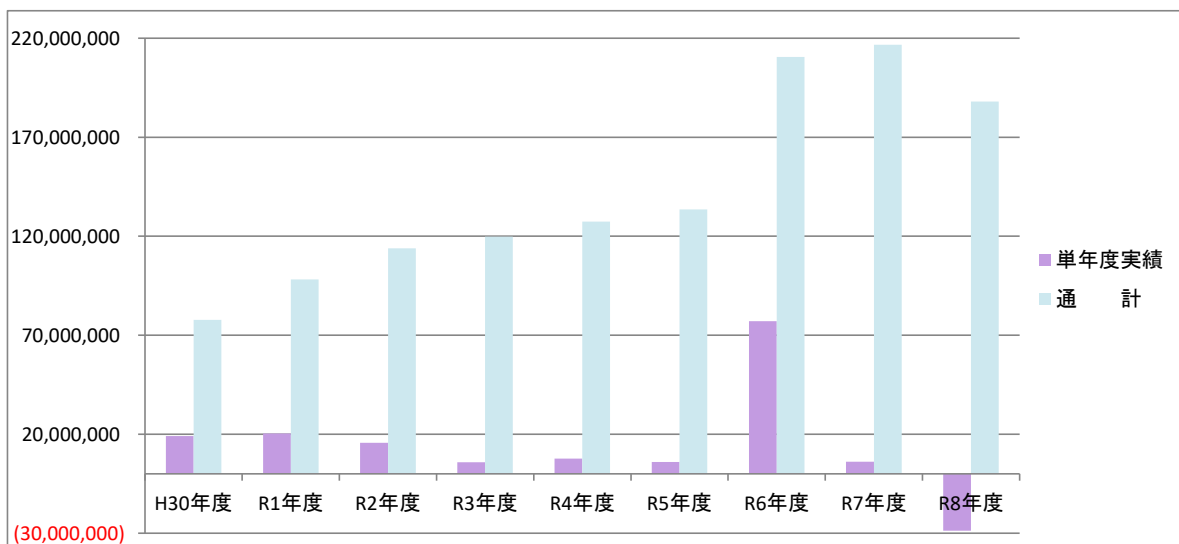
介護給付費準備基金は、介護保険事業特別会計において発生した余剰金を積み立て、第1号保険料の財源不足時に取り崩して充当するために設置される基金です。事業運営期間の最終年度において残高がある場合には、次期保険料を見込むにあたり、最低必要と認められる額を除き取り崩すことが基本的な考え方であるとされています。

第9期介護保険料額設定については、保険給付費の増加が見込まれたものの、支払に不足額が生じた場合には、第8期末までの基金積立金を活用することとし第8期保険料と同額に据え置きました。

（単位：円）

	第7期			第8期			第9期		
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
単年度実績	19,018,000	20,419,000	15,675,000	5,875,277	7,665,408	6,040,555	77,105,000	6,081,000	△ 28,700,000
通 計	77,799,663	98,218,663	113,893,663	119,768,940	127,434,348	133,474,903	210,579,903	216,660,903	187,960,903

※令和8年度実績は見込み値



〔説明〕

基金運用の実績（見込み）としては、第9期計画策定当初は、計画期間中（R6～R8）に88,700千円の基金取り崩しを見込んでいましたが、令和6年度及び令和7年度決算では、介護給付費の伸びが計画値を下回る実績であったため、取り崩しを必要とせず、基金への積み立てができました。なお、令和8年度予算では、28,700千円の取り崩しが必要となる予算編成となっています。

5 地域支援事業の取組実績と見込み

(単位：人、回)

			区分	単位	第8期			第9期					
					令和3年度 (実績)	令和4年度 (実績)	令和5年度 (実績)	令和6年度 (計画値見込)	令和6年度 (実績)	令和7年度 (計画値見込)	令和7年度 (実績)	令和8年度 (計画値見込)	令和8年度 (実績見込)
介護予防・日常生活支援総合事業費	介護予防・生活支援サービス事業	介護予防訪問介護相当サービス	延人数	221	269	278	270	327	280	344	280	340	
		介護予防通所介護相当サービス	延人数	877	845	851	870	788	880	730	880	815	
		筋力アップ教室北条 ※ (通所型サービスA)	回数	48	48	48	48	48	48	48	48	48	
			延人数	479	324	299	400	314	410	330	410	300	
		筋力アップ教室大栄 ※ (通所型サービスA)	回数		48	48	48	48	48	48	48	48	
			延人数		381	431	400	262	410	299	410	300	
		リフレッシュ教室 ※ (通所型サービスA)	回数	48	48	47	48	48	48	48	48	48	
			延人数	262	242	374	380	352	390	349	390	350	
		はつらっ！お達者教室 ※ (通所型サービスA)	回数	48	48	48	48	48	48	48	48	48	
			延人数	476	389	385	380	359	390	253	390	250	
		食べて！うたって！笑わー 会！(通所型サービスA)	回数	47	48	47	48	47	48	48	48	48	
			延人数	355	278	181	300	269	310	340	310	350	
		パワーリハビリ教室 ※ (短期集中予防サービス) (R4.11月～R6.3月まで休 止)	回数	48	29		48	48	48	48	48	48	
			延人数	314	209		250	232	260	197	260	200	
	一般介護予防事業	認知症サポーター養成講座	回数	4	9	6	6	10	6	6	6	9	
			延人数	227	609	215	250	261	250	208	250	200	
		介護予防運動サポーター養 成講座	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
			延人数	14	14	24	20	15	20	16	20	15	
		お口の機能向上事業	回数	3	3	3							
			延人数	41	29	57							
		リハビリテーション専門職 派遣事業	回数(個別)	15	22	13	12	20	12	24	12	12	
			回数(集いの場)			26	23	31	23	34	23	24	
			延人数(集いの場)			309	280	376	280	390	280	350	
		シニアファイト教室 ※ (運動器機能向上教室)	回数	46	48	48	48	48	48	48	48	48	
			延人数	227	202	318	300	271	310	324	310	330	
		転倒予防教室 ※ (運動器機能向上教室)	回数	24	24	24	24	24	24	24	24	24	
			延人数	404	243	206	270	365	280	380	280	350	
		生きがいデイサービス (閉じこもり予防教室)	回数	103	103	103	104	99	104	100	104	100	
			延人数	962	923	838	910	746	910	673	910	600	
		脳活クラブ ※ (認知症予防教室)	回数	48	48	47	48	48	48	48	48	96	
			延人数	376	344	243	330	340	340	279	340	600	
		こけないからだ講座	地区数	1	0	0	1	4	1	0	1	1	
		高齢者サークル活動支援事業	サークル数	26	26	25	27	27	28	30	29	32	
			回数	1,173	1,364	1,477	1,498	1,716	1,546	1,844	1,594	1,800	
			延人数	7,456	9,286	10,447	10,440	12,438	10,680	13,296	10,920	13,500	
包括的支援事業・任意事業	包括的支援事業	地域ネットワーク会議	回数	3	10	6	5	6	5	6	5	7	
			延人数	103	386	237	200	231	200	190	200	190	
		地域ケア会議	回数	16	16	20	22	20	20	20	23	20	
			延人数	50	36	56	66	53	55	50	69	60	
	任意事業	在宅介護者慰労事業	回数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
			延人数	30	40	29	40	27	40	22	40	20	
		家族介護用品支給事業	延人数	18	11	9	12	6	14	7	16	3	
		認知症の人と家族のつどい	回数	9	12	12	12	12	12	12	12	12	
			延人数	20	47	51	60	58	60	60	60	60	
		成年後見制度利用支援事業	件数	0	2	2	2	2	2	2	2	4	

※第8期の数値は、集合開催と個別モニタリング開催の合計

第9期計画の振り返りと課題

(1) 介護予防施策の充実・推進

【主な事業】

- ・ 一般介護予防事業（介護予防普及啓発事業、地域リハビリテーション活動支援事業、地域介護予防活動支援事業等）
- ・ 介護予防・生活支援サービス事業（多様なサービス、介護予防ケアマネジメント）

【現状と成果】

- 介護予防普及啓発事業として「シニアファイト教室」「転倒予防教室」「生きがいデイサービス」「脳活クラブ」の各種教室を継続開催しました。令和7年度に実施した「軽度認知障害の早期発見・認知症予防のための研究事業」の物忘れ相談プログラムの結果に応じて、予防域の人に個別訪問を実施し、その受け皿のための「脳活クラブ（地域包括支援センター直営）」を令和8年度4月より開始しています。
- 自治会のいきいきサロン等に出向く出前講座（令和6年度29回・421人、令和7年度15回・200人参加）を実施し、フレイル予防や認知症予防等の普及啓発に努めました。
- 令和6年度、働き世代からの運動習慣啓発および全町的な健康づくりを目指し、健康推進課と連携した「いいね！北栄町体操！」企画を実施しました。町長自らによる運動効果検証（体重5.2kg減量を達成）を江府町長との対決企画として展開することで、広報・メディア周知を図り、町民の意識につなげました。
令和7年度、この体操を介護予防としても活用するため、リハビリ専門職や健康運動実践指導者の協力のもと「介護予防バージョン（座位・立位）」を制作し、全自治会等へのDVD・パンフレット配布やYouTube配信にて周知しました。また、令和8年1月より生涯学習課出前講座のメニューに追加し、令和8年度は上半期で23回・551人参加と体操普及に努めています。
- 理学療法士・歯科衛生士等の専門職を住民の集いの場（いきいきサロンや「こけないからだ体操」等）へ派遣し、講義や体操指導、口腔衛生指導を行うとともに、個別訪問によるADL評価や環境評価を実施しました（個別訪問：令和6年度19件、令和7年度24件／集いの場派遣：令和6年度31件・376人、令和7年度34件・390人）。年度末には専門職同士の意見交換会を開催しました。
- こけないからだ体操継続地区へのフォロー訪問（令和6年度28自治会・290人、令和7年度30自治会・307人）を推進しました。「ほくえい介護予防フェスタ」において5年・10年以上継続実施している自治会を表彰し、住民のモチベーションの向上を図りました。また、介護予防運動サポーター養成講座を開催し（令和6年度15人、令和7年度16人養成）、地域での運動リーダーの育成に努めました。
- 介護予防・生活支援サービス事業として「筋力アップ教室」「パワーリハビ

り教室」「食べて！うたって！笑わー会！」「はつらつ！お達者教室」「リフレッシュ教室」を展開し、要支援者や事業対象者に対する運動機能向上や認知症予防を図りました。介護予防・認知症予防事業として、こけないからだ体操等集いの場に出かけ、フレイル予防・認知症予防、熱中症予防、ヒートショックについて啓発をしました。あわせて、社会福祉協議会に配置している生活支援コーディネーターも同行し、地域での見守り・支えあいの働きかけを行いました。

【課題】

- 高齢者人口がピークを迎える中、元気なうちからの自立支援・介護予防の重要性を町民全体へさらに啓発し、認識を高めていく必要があります。
- 住民が主体的に取り組む集いの場へのリハビリテーション専門職等の派遣を継続・強化し、専門職の助言・指導を活かした効果的な機能維持・重度化防止およびオーラルフレイル予防を推進することが求められます。
- 保健部門（健康づくり）との一体的な取り組みや、既存の地域資源・集いの場とのさらなる連携を図り、参加しやすく持続可能な介護予防の受け皿を拡充していく必要があります。

（２）在宅医療・介護連携の推進

【主な事業】

- ・在宅医療・介護連携推進事業

【現状と成果】

- 中部圏域１市４町、中部医師会、倉吉保健所による「在宅医療・介護連携推進事業における担当者会議」を２か月に１回程度開催（令和６年度７回、令和７年度８回）し、広域での連携体制を維持・強化しながら事業を推進しています。
- 一次連携として、中部圏域内の入院医療機関との意見交換会を実施し、医療機関の現状や課題把握および共有に繋がりました。
- 医療・介護の多職種による顔の見える関係づくりの場として「中部圏域地域づくりしよいやの会」を開催しました。身寄りのない方の支援、ACP（アドバンス・ケア・プランニング、人生会議）、病院の地域支援等をテーマに講演やグループワークを行い、専門職間の相互理解の深化や、顔の見える関係づくりに努めました（令和６年度：第３７回８４人・第３８回８４人、令和７年度：第３９回１１１人・第４０回７４人参加）。
- 「医療・介護連携の推進に係るアンケート調査」（入退院のケースについて、介護支援専門員より病院へ、病院より介護支援専門員へ連絡調整した割合を調査）を医療機関に対して実施し、連携率（令和６年度：入院時連携率８３．３％、退院時連携率８９．５％、令和７年度：入院時連携率８０．４％、退院時連携率９１．１％）について確認しました。また、令和７年度には、居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターに対して、医療機関との連携上での課題や入院時連携できなかった理由、課題点のみならず好事例についても調査しました。

- 地域資源検索サイト「しゅいや！しゅいや！在宅医療介護連携情報サイト」の更新を実施しました。
- 平成 29 年度から運用開始した「中部圏域入退院調整手順」については、職能団体等から意見を集約し随時更新しています。
- 町独自の取組みとして、ドキュメンタリー映画「ぼけますから、よろしくお願いします。」の福祉映画上映会（令和 6 年 8 月、160 人参加）を開催し、在宅医療・介護や認知症に関する住民の理解促進に努めました。
- 令和 8 年度、山形市医師会の在宅医療・介護連携室が作成した「いっぷぐカード」を参考に、町独自で ACP 普及啓発を目的に活用する「いっぷくしゅいやカード」を作成しました。今後、終活出前講座で新しい ACP カードゲームとして活用します。

【課題】

- 医療と介護の両方を必要とする高齢者の増加に伴い、4 つの場面（①日常の療養支援、②入退院支援、③急変時の対応、④看取り）における円滑な連携体制を構築できるよう、課題を分析し、目標や対応策を検討していく必要があります。
- 中部圏域入退院調整手順の定着・更なる利用促進を図るとともに、医療機関と介護事業所との切れ目ない情報共有を推進することが求められます。
- 人生の最終段階における医療・ケアの選択（ACP 等）や在宅での看取りについて、町民への普及啓発を継続し、本人・家族の意思決定支援を推進する必要があります。

（3）認知症施策の推進

【主な事業】

- ・ 認知症地域支援・ケア向上事業 ・ 認知症初期集中支援推進事業
- ・ 認知症サポーター等養成事業

【現状と成果】

- 認知症の人やその家族が安心して生活するため、地域の人にも認知症について正しく理解していただくことを目的として、認知症サポーター養成講座を実施しました。養成講座標準教材の改訂や認知症基本法の施行に合わせて、令和 6 年度に講座の内容を一新しました。また、地域包括支援センターによる講義のほか、令和 6 年度には自治会からの要望を受けて住民参加の寸劇を取り入れたり、令和 8 年度には北条小学校で倉吉病院認知症医療疾患センターと連携して認知症の学習に取り組みました。
- 認知症の普及啓発活動として、毎年 9 月に世界アルツハイマー月間の懸垂幕を大栄庁舎に掲揚するほか、令和 5 年度に始めたオレンジガーデニングプロジェクトを継続実施しました。オレンジガーデニングプロジェクトでは町内の地域密着型サービス事業所とこども園と一緒に苗植えを行い、世代間交流の機会になりました。また、令和 8 年度に新たに大栄生涯学習まちづくり研究会や中央専修学園の学生のボランティアが参加しました。広報も工夫し

キバナコスモスの種付きチラシを町障がい者地域自立支援協議会研修会やいきいきサロン等 12 カ所、310 人へ配布、YouTube(1 回)SNS(2 回)による配信や TCC(2 回)、NHK(1 回)の取材放送もされ幅広い対象へ広報しました。

- 認知症の人を見守り、支える地域づくりを推進するため、認知症高齢者等ご近所応援団ネットワーク事業「ほくえい見守り安心ネット」の強化の取り組みとして、行方不明者情報提供メール訓練や登録機関、行政、警察での連絡会議を年 1 回開催しました。令和 8 年度には、閉庁時の行方不明事案発生時の対応強化として、総務課と協議し、夜間・休日の対応を取り決めました。
- 行方不明者の早期発見につなげることを目的とした「ほくえい見守りシール」は、令和 6 年度に運用を開始し、希望者への配付と登録機関を中心とした地域への周知を図りました。
- 町健康診断（集団検診）の場で、タッチパネル操作による物忘れ相談プログラム（スクリーニング検査）を各年 10 回実施し、脳の健康チェックを行うことで認知症の予防や早期対応についての啓発を行いました。その中で、認知症の疑いのある人に対しては、個別に介護予防教室の案内や専門医受診等の相談支援を行いました。
- 認知症の人と家族の集いは、地域包括支援センター職員も参加しながら、介護者同士のピアカウンセリング的な場として開催しました。年に 1 回は日曜日に開催したり認知症と家族の会鳥取県支部から助言者を招くことで、新たな参加を促しました。
- 認知症ケアの質の向上と介護従事者への支援を目的として、町内地域密着型サービス事業所と連携して認知症ケア向上連絡会を開催し、毎年、運動会と研修会を行いました。運動会は事業所の利用者・職員が交流することで横のつながりを持つことを主な目的とし、研修会は職員の認知症ケアの質の向上を目的とした研修を行いました。
- NPO 法人まちづくりネット主催のオレンジカフェ「なう+」は、認知症の人とその家族、地域住民、専門職等、誰でも気軽に集える認知症カフェとして運営されています。地域包括支援センターが運営を補助し、町内地域密着型サービス事業所の協力も得ながら、参加しやすく相談もできる地域の居場所となっています。
- 認知症の人が集い、本人同士が主体となって暮らしやすい地域のあり方を話し合う場として、県主催で本人ミーティングが開催されています。町からも認知症地域支援推進員中心に参加し、令和 8 年 8 月には本人ミーティングが北栄町で開催され、由良宿まち歩きを行いました。
- 認知症等により判断能力が低下した人の権利擁護を行う成年後見制度については、北栄町地域福祉推進計画の中に位置づけた北栄町成年後見制度利用促進計画に基づき、地域連携ネットワークの強化や個別の制度紹介・申立支援、町報での啓発活動を行いました。
- 令和 7 年度に、厚生労働省から委託を受けた鳥取大学（研究責任者：医学部保健学科浦上克哉教授）と共同で、軽度認知障害の早期発見・認知症予防のための研究事業を実施しました。60 歳以上の介護保険認定がない人を対象に、ニンテス（嗅覚検査）とタッチパネル操作による物忘れ相談プログラム（スクリーニング検査）を実施しました。さらに、物忘れ相談プログラム

の結果に応じて個別対応を行い、認知症予防教室や医療受診につなげました。

- 年 1 回開催しているほくえい介護予防フェスタでは、令和 6 年度から 3 年連続で認知症をテーマに取り組みました。令和 6 年度は認知症の人と家族の会鳥取県支部の吉野立代表と県内の認知症当事者 2 名をお招きし、当事者の声を聞く機会となりました。令和 7 年度は鳥取大学の河月稔講師による認知症予防の講演と認知症予防教室の卒業生によるパネルディスカッション、令和 8 年度は鳥取大学の浦上克哉教授をお招きし、令和 7 年度に実施した研究の報告と認知症の最新情報に関する講演会を行いました。

【課題】

- 令和 6 年に認知症基本法が施行され、認知症の人を主体とした暮らしの支援への取り組みが進められています。認知症カフェや認知症の人と家族の集い等、認知症の人やその家族がつながる場、安心できる居場所をより充実させる必要があります。
- 認知症の人やその家族が安心して生活するためには、ともに暮らす地域の人に認知症について正しく理解していただくことが重要です。認知症サポーター養成講座等、認知症に関する啓発活動をより効果的に推進していく必要があります。
- 認知症は早期診断・早期対応が重要です。本人や家族が安心して相談できるよう、相談窓口を周知したり、スクリーニング検査の実施等により相談機会を設けたりすることで、認知症への早期対応、状態に応じた医療・介護サービスへの利用支援を行う必要があります。

(4) 生活支援・介護予防サービスの基盤整備の推進

【主な事業】

- ・生活支援体制整備事業

【現状と成果】

- 第 1 層および第 2 層生活支援コーディネーター（社会福祉協議会へ委託）を配置し、地域資源の把握や助け合い活動の推進に取り組みました。
- 民生児童委員、福祉推進員、愛の輪協力員を対象とした合同研修会を開催し、地域での見守りや気づきの意識向上を図りました。令和 6 年度は事例を用いた「模擬支え愛連絡会」のグループワークを実施し（94 人参加）、令和 7 年度は自治会長（20 人参加）へも対象を広げ、グループトークを行いました（107 人参加）。
- 支え愛連絡会（自治会単位で役員、班長、民生児童委員、福祉推進員、愛の輪協力員等が集まり、地域の困りごとや見守りを行っている人の情報交換の場）に参加し、地域の助け合い活動の推進を行っています。令和 6 年度は 7 自治会（うち北尾、中央団地が新規）で 10 回開催（116 人参加）、令和 7 年度は 6 自治会で 8 回開催（102 人参加）、令和 8 年度は 4 自治会（うち江北が新規）で 4 回開催（37 人参加）しました。
- 支え愛マップは、令和 6 年度には西穂波、田井で作成し（国坂浜で更新相

談)、令和 7 年度は国坂浜、西穂波で作成・更新を行うとともに、由良宿 1 区、弓原、由良宿 3 区で説明・導入相談を実施しました。令和 8 年度は由良 3 区、北条島、弓原が作成し、西穂波と土下は今後作成予定となっており、さらに国坂東に導入説明を行っています。

- 住民助け合い活動「あったかまごころサービス」は、身近な困りごと（週 1 回のごみ出し、買い物、掃除等）に対し、生活支援サポーターが柔軟に対応しました。令和 6 年度は相談 49 件（利用 16 人・活動者 11 人）で年間 218 回、令和 7 年度は相談 58 件（利用 23 人・活動者 9 人）で年間 294 回と、利用者数・活動回数ともに大きく増加しました。
- 生活支援サポーターを養成講座を開催し（令和 6 年度 7 人受講・4 人修了、令和 8 年度 9 人受講・6 人修了）、サポーター連絡会を通じて活動報告や意見交換、ミニ講座を実施しました（令和 6 年度 11 人、令和 7 年度 7 人参加）。
- 第 2 層協議体「助け合い推進会議（よっしゃやらあ会）」を北条・大栄の各地区で毎月定例開催しました（令和 6 年度：北条 9 回・大栄 9 回／令和 7 年度：北条 10 回・大栄 9 回）。倉吉市子ども食堂「パッチワーク」への視察（令和 6 年度 5 人）、北栄町福祉施策アドバイザー土屋幸己氏による講義（令和 7 年度 10 人）や日野町「オレンジサロンかわこ」への視察（8 人）を通じて知識向上を図りました。
- よっしゃやらあ会は、北条地区「ほっこりひろば」（令和 6 年 4 月再開、令和 6 年度 11 回、令和 7 年度 12 回）、大栄地区「にじいろカフェ」（各年 12 回）を継続運営しました。さらに令和 7 年度には、地域ケア会議で抽出された地域課題と地域のお宝（資源）を整理・共有した成果を踏まえ、「出張にじいろカフェ」や「買い物ツアー」等の住民参加型企画を展開しました。また、介護予防フェスタ（2024・2025）にてフリーマーケットやパネル展示、地域福祉推進フォーラム 2025 で活動発表を行いました。
- 令和 8 年度には、第 1 層協議体（ほくえい支え愛協議体）にて、よっしゃやらあ会の地域課題の実践活動を発表し、第 1 層で取り組むべきことを検討する予定です。
- 小・中・高校生との交流（高齢者疑似体験、認知症サポーター講座、メッセージ配布、中央高等学園によるサロン「ふれあい公民館」等）を実施しました。

【課題】

- 人口減少や訪問介護サービス事業所の人手不足が見込まれる中、既存のサービス事業所だけに頼らない多様な主体（民間事業者、NPO、地域住民等）が参画する持続可能な生活支援サービスの構築が大きな課題です。
- 地域の中で「支え手」「受け手」という関係を超え、誰もが役割を持って参加できる身近な居場所づくりや助け合い活動を町内各地に広げていく必要があります。
- 生活支援サポーターをはじめとする活動者の養成・フォローアップ体制を充実させ、住民自身が主体的に地域課題の解決に取り組める環境を整える必要があります。

(5) 地域ケア会議の充実

【主な事業】

- ・ 地域ケア会議の実施
- ・ 地域課題検討会の実施

【現状と成果】

- 地域の高齢者等の多様なニーズに対し、効果的なサービスを総合的に調整し、自立支援を目指した会議を開催しています。
- 自立支援型地域ケア個別会議を月2回(第2・4火曜日)定期開催し、医療・介護等の多職種(歯科医師・薬剤師・リハビリテーション専門職・管理栄養士・生活支援コーディネーター等)が協働して高齢者等の個別課題の解決を図るとともに、介護支援専門員やサービス事業所の自立支援に向けたケアマネジメントの実践力を高める取り組みを実施しています(実施回数：令和6年度20回・55件、令和7年度20回・50件)。
- 地域ケア会議終了後に地域課題検討会を開催し、提出されたケースから共通する地域課題の洗い出しと対応策について検討を行いました。
- 令和6年度は、働き世代・中年世代の運動不足課題に対し、健康推進課と連携した「働き世代の健康づくり企画(いいね!北栄町体操!)」の創出につながりました。
- 令和7年度は、抽出した課題と今後の事業展開について、専門職や地域ケア会議助言者が共有及び意見交換する「地域ケア推進会議」を初開催しました。また、地域ケア会議助言者と、「フィードバック方法に関する意見交換会」を開催し、助言者に対する成果・進捗共有の仕組みづくりに着手しました。
- 令和8年度は、令和7年度に開催した地域ケア推進会議にて出た意見を参考に、地域ネットワーク会議の研修計画を立てました。

【課題】

- 地域ケア会議で助言を受けた個別事例の経過や成果について、多職種の助言者へ適切にフィードバックする評価・共有システムを定着させ、助言の質向上と動機づけに繋げる必要があります。
- 個別会議や地域課題検討会から抽出された地域課題を、ケアマネジャーや専門職と共有し、新たな社会資源の創出や施策化、その他必要な支援者支援へ結びつけるサイクルをさらに強固にしていく必要があります。
- 個別会議や地域課題検討会から抽出された地域課題について、専門職との共有のみならず、地域住民と共有する方法についても検討していく必要があります。

(6) 感染症対策や災害に係る体制整備

【主な事業】

- ・ 要援護者台帳の整備、BCP(業務継続計画)・防災研修の実施

【現状と成果】

- 地域ネットワーク会議等を活用し、感染症流行や自然災害の発生に備えた研修を実施しました。令和6年度は総務課情報防災室による町防災対策の説明および能登半島地震を踏まえた防災対策研修（講師：後藤至功氏、参加者30人）を実施しました。令和7年度は能登半島地震の被災地状況を踏まえた「BCP研修」（講師：細田太一氏、参加者32人）にて講演と実際の災害を想定した演習も行い、令和8年度には「BCP訓練研修」を開催し、事業所の業務継続体制の強化を図りました。
- 令和8年度に役場福祉課内で地域包括支援センターBCPと町の防災計画、ハザードマップに従い、地震想定の上訓練を実施しました（参加者13人）。
- 世帯状況や施設等への入退所、要介護状態や障がい者等にかかる情報の時点更新を行うほか、民生委員の協力を得ながら独居状態となっている高齢者等の状況把握を行い、要援護者台帳の更新を随時行っています。
- 介護事業所等に対する適切な情報提供や適切な感染予防策の啓発を行うことで、安心・安全なサービス提供体制および地域での集いの場等の活動維持を支援しました。

【課題】

- 感染症拡大時においても、必要な介護サービスや地域での支え合い活動を継続できるよう、各事業所および地域の対応力を高める支援が必要です。
- 自然災害の頻発・激甚化に備え、介護事業所におけるBCPの実効性を高める訓練支援を行うとともに、防災担当部門や民生児童委員等と連携し、個別避難計画の作成推進や地域における災害時の安否確認・避難支援体制の構築を進める必要があります。

高齢者福祉事業の実施状況

(1) 老人福祉法第20条の8に基づく「高齢者福祉計画」として記載すべきサービス等の実施状況

表のかっこ内は計画値

○養護老人ホーム（老人保護措置事業）

養護老人ホームは、環境上の理由及び経済的な理由により在宅において養護を受けることが困難な高齢者が入所し、自立した日常生活を営むための施設です。

町内には養護老人ホームがないため、中部地区にある2施設に業務を委託。

	第8期			第9期		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
施設数（箇所）	2	2	2	2(2)	2(2)	2(2)
入所定員（人）	180	180	180	174(174)	174(174)	174(174)
利用者数（人）	7	8	4	5(5)	5(5)	5(5)

※令和6年度より1施設が2人部屋を1人部屋に変更する見直しを行ったため、入所定員数が減少。業務委託している施設に変更なし。

※令和8年度は見込み

○老人福祉センター

老人福祉センターは、健康の増進や教養の向上などを図るため、レクリエーション等を通じた交流等を行うための施設です。

町内には1箇所整備されており、北栄町社会福祉協議会が運営しています。

	第8期			第9期		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
施設数（箇所）	1	1	1	1(1)	1(1)	1(1)

※令和8年度は見込み

○地域包括支援センター

地域包括支援センターは地域住民からの高齢者に関するあらゆる相談に応じ、必要なサービス等につなげる機関です。現在、町内に1箇所設置（直営）しており、今後も現体制を維持し、地域包括ケアシステム推進に向け機能強化を図ります。

	第8期			第9期		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
施設数（箇所）	1	1	1	1(1)	1(1)	1(1)

※令和8年度は見込み

(2) その他に北栄町が実施している高齢者に関するサービス等の実施状況

表のかっこ内は計画値

○米寿・金婚慶祝事業

長年にわたり社会の発展に貢献され米寿を迎えた方・金婚を迎えたご夫婦に対し、9月の敬老週間等にあわせ祝詞と記念品を贈り祝意を表します。

	第8期			第9期		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
米寿(人)	113	117	41	128(137)	112(127)	66(89)
金婚(組)	54	57	53	54(50)	45(50)	53(50)

※令和5年度より米寿表彰の対象者を「数え→満年齢」に変更したため、令和5年実績のみ表彰対象者数が少なくなっている。

○敬老会事業

長年にわたり社会の発展に貢献された高齢者に対し敬老の意を表し、地域で祝福するため、満75歳以上になる学年の者を対象に敬老会や敬老記念行事を行った自治会に対し、対象者1人につき1,000円の補助を行います。令和8年度からは、集合開催した場合に1,000円加算する改正を行い実施しています。

	第8期			第9期		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
自治会数	53	54	53	53(54)	54(54)	54(54)
対象者(人)	2,408	2,551	2,516	2,663(2,555)	2,773(2,609)	2,820(2,673)

※令和8年度は見込み

○北栄町シルバー人材センター補助金事業

元気な高齢者が長年培ってきた知識と能力を活かすため、日常生活に密着した軽易な仕事を組織的に提供するシルバー人材センターに対し、その運営が円滑に行えるよう人件費・事業費・運営費に対して補助を行います。

	第8期			第9期		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
会員数(人)	161	169	155	169(180)	151(185)	150(190)
就業件数(件)	1,617	1,754	1,408	1,303(1,850)	1,505(1,900)	1,500(1,950)
就業延べ人数(人)	12,378	11,546	11,365	12,077(12,500)	11,407(13,000)	12,000(13,500)

※令和8年度は見込み

○老人クラブ補助金事業

高齢者の社会参加、地域支えあい活動の促進のため、単位老人クラブ及び町老人クラブ連合会に対し補助金を交付し、会員の教養の向上、健康の増進、地域社会との交流を図ります。

	第 8 期			第 9 期		
	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
クラブ数（団体）	20	19	19	19(19)	19(19)	19(19)
会員数（人）	718	626	613	601(620)	592(625)	580(630)

※令和 8 年度は見込み

○生活管理指導短期宿泊事業

基本的な生活習慣が欠如していたり、対人関係が成立しないなど、社会適応が困難な高齢者に対して、一時的に養護老人ホームに入所していただき、在宅生活が可能となるよう日常生活の指導、支援を行います。

	第 8 期			第 9 期		
	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
利用者数（人）	2	1	2	2(2)	3(2)	2(2)

※令和 8 年度は見込み

○在宅通院サービス事業

介護サービス利用者・障がい者に対し、タクシーを利用した自宅からの通院を助成することにより、定期的な通院手段を確保し、身体状況の悪化を防ぎ、永年住み慣れた地域社会の中で引き続き生活していくことを支援します。

	第 8 期			第 9 期		
	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
利用者数	221	203	186	165(230)	153(232)	167(234)
延べ利用回数 （回）	4,941	5,702	5,261	5,415(5,720)	3,514(5,730)	5,148(5,740)

※令和 8 年度は見込み

○タクシー利用料助成事業

自動車運転免許証を返納された人や障がい等特別な事情により移動手段に困られている人にタクシー利用料を助成することにより、利用者の負担軽減と移動手段の確保を進め、住み慣れた地域社会の中で引き続き生活していくことを支援します。

	第 8 期			第 9 期		
	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
利用者数 (人)	693	601	592	581(600)	579(600)	575(600)
延べ利用回 数(回)	12,974	13,780	15,340	13,781(15,000)	11,466(15,000)	11,000(15,000)

※令和 8 年度は見込み

○いきいきサロン事業

自治会単位で高齢者等の交流の場を作ることで、一人暮らしや家に閉じこもりがちな高齢者の社会参加を促進し、要介護状態になることを予防します。また現在要介護状態にある人が自立となった場合の受け皿としての機能も担います。

	第 8 期			第 9 期		
	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
延べ実施回数 (回)	653	824	1,029	1,070(850)	1,141(850)	1,185(850)
延べ利用者数 (人)	7,226	8,834	10,882	11,498(9,000)	12,144(9,000)	12,800(9,000)

※令和 8 年度は見込み

○高齢者住宅改修費補助金事業

要介護（支援）認定者ができるかぎり自宅において、自立した生活が送れるよう住環境の整備を行うとともに、介護する家族の負担軽減を図るもので、住宅改修に要した経費の一部を補助します。

また、高齢者が安心して生活できる住まい等の情報の収集と提供に努めます。

	第 8 期			第 9 期		
	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
件数(件)	0	0	1	1(1)	0(1)	1(1)

※令和 8 年度は見込み

○緊急通報装置貸与事業

70 歳以上の一人暮らし高齢者等（非課税世帯で利用対象要件に該当する者）に 24 時間体制で緊急時の通報や相談に対応する緊急通報装置を貸与するもので、今後も需要の増加が見込まれるところであり、急病や火災等の緊急時の迅速かつ適切な対応を行う取組として引き続き実施します。

	第 8 期			第 9 期		
	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
利用者数（人）	12	13	12	9(13)	6(13)	8(13)

※令和 8 年度は見込み

○高齢者見守り体制促進事業

70 歳以上の一人暮らし高齢者を対象に、I C T 機器を活用した見守りサービスの導入を支援し、地域で見守る体制の充実を図ります。

	第 8 期			第 9 期		
	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
利用者数（人）	—	—	—	0(20)	0(20)	0(20)

※令和 6 年 4 月開始事業

※令和 8 年度は見込み

○高齢者補聴器購入費補助金事業

聴力機能の低下により日常生活等に支障がある高齢者に対し、コミュニケーションを取ることが困難になったことに起因する閉じこもりや認知機能の低下等を防ぐとともに、積極的な社会参加及び地域交流を支援する取組として引き続き実施します。

	第 8 期			第 9 期		
	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
件数（件）	—	8	19	25(20)	20(20)	6(20)

※令和 4 年 7 月開始事業

※令和 8 年度は見込み

在宅介護実態調査

【調査の目的】

この調査は「要介護者の在宅生活の継続」や「家族等介護者の就労継続」に有効な介護サービスの在り方を検討することを目的としています。

【調査対象者】

在宅生活をしている高齢者で、介護認定を受けており、1回以上更新申請・区分変更申請をしている者

【調査方法・時期】

担当介護支援専門員による聞き取り

令和8年1月～3月の期間で実施

【回収結果】

調査件数	回収件数	回収率
327	322	98.47%

【A票】 認定調査員が、概況調査等と並行して記載する項目

聞き取り相手(複数回答)	前回	
1. 調査対象者本人	145	111
2. 主な介護者となっている家族・親族	178	165
3. 主な介護者以外の家族・親族	8	6
4. 調査対象者のケアマネジャー	65	64
5. その他	2	2
未回答	0	0
	398	348

問1 世帯類型

「その他」の割合が最も高く、次いで、「単身世帯」、「夫婦のみの世帯」となっている。

	前回			
1. 単身世帯	64	19.88%	52	17.28%
2. 夫婦のみの世帯	55	17.08%	51	16.94%
3. その他	203	63.04%	191	63.46%
未回答	0	0.00%	7	2.33%
	322		301	

問2 介護の頻度

「ほぼ毎日」の割合が最も高く、次いで、「ない」、「週に1日よりも少ない」となっている。

	前回			
1. ない	37	11.49%	28	9.30%
2. 週に1日よりも少ない	35	10.87%	24	7.97%
3. 週に1～2日	19	5.90%	22	7.31%
4. 週に3～4日	10	3.11%	7	2.33%
5. ほぼ毎日	221	68.63%	216	71.76%
未回答	0	0.00%	4	1.33%
	322		301	

→ 問8へ

問3 主な介護者

「子」の割合が最も高く、次いで、「配偶者」、「子の配偶者」となっている。

			前回	
1. 配偶者	72	25.26%	62	22.71%
2. 子	136	47.72%	137	50.18%
3. 子の配偶者	47	16.49%	55	20.15%
4. 孫	8	2.81%	4	1.47%
5. 兄弟・姉妹	11	3.86%	3	1.10%
6. その他	11	3.86%	12	4.40%
未回答	0	0.00%	0	0.00%
285			273	

問4 主な介護者の性別

性別は「女性」が65.61%、年齢は60歳以上が73.33%を占めている。前回調査では60歳以上の割合は74.73%であった。

参考：男女比(問3と問4との重ね合わせ)

			前回	
1. 男性	98	34.39%	78	28.57%
2. 女性	187	65.61%	195	71.43%
未回答	0	0.00%	0	0.00%
285			273	

	男	女	男女比
1. 配偶者	23	49	23:49
2. 子	63	73	63:73
3. 子の配偶者	3	44	3:44
4. 孫	3	5	3:5
5. 兄弟・姉妹	5	6	5:6
6. その他	1	10	1:10
	98	187	98:187

問5 主な介護者の年齢

			前回	
1. 20歳未満	1	0.35%	0	0.00%
2. 20代	1	0.35%	0	0.00%
3. 30代	4	1.40%	4	1.47%
4. 40代	20	7.02%	12	4.40%
5. 50代	50	17.54%	51	18.68%
6. 60代	93	32.63%	110	40.29%
7. 70代	81	28.42%	59	21.61%
8. 80歳以上	35	12.28%	35	12.82%
9. わからない	0	0.00%	1	0.37%
未回答	0	0.00%	1	0.37%
285			273	

参考：男女比(問4と問5との重ね合わせ)

	男	女	男女比
1. 20歳未満	0	1	0:1
2. 20代	0	1	0:1
3. 30代	1	3	1:3
4. 40代	9	11	9:11
5. 50代	21	29	21:29
6. 60代	33	60	11:20
7. 70代	18	63	2:7
8. 80歳以上	16	19	16:19
	98	187	98:187

問6 介護の内容(複数回答)

「掃除、洗濯、買い物」、「金銭管理や生活に必要な手続き」、「食事の準備」の生活援助に関するものはほとんどの介護者が行っている。
身体介護においては、「外出の付き添い、送迎」や「服薬」の支援が多く行われている。

		前回
1. 日中の排泄	63	62
2. 夜間の排泄	46	66
3. 食事の介助(食べる時)	20	21
4. 入浴・洗身	39	32
5. 身だしなみ(洗顔・歯磨き等)	38	53
6. 衣服の着脱	68	78
7. 屋内の移乗・移動	38	47
8. 外出の付き添い、送迎等	215	196
9. 服薬	136	148
10. 認知症状への対応	77	90
11. 医療面での対応(経管栄養、ストーマ 等)	12	11
12. 食事の準備(調理等)	220	223
13. その他の家事(掃除、洗濯、買い物 等)	241	243
14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き	225	211
15. その他	10	8
16. わからない	0	1
未回答	0	1
	1,448	1,491

問7 周囲の就業形態の変化(複数回答)

仕事を辞めていない方がほとんどだが、仕事を辞めた、転職、勤務形態を変更した方もあった。

		前回
1. 主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)	8	8
2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く)	1	1
3. 主な介護者が転職した	2	0
4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した	1	0
5. 主な介護者が勤務形態を変えた(正職員→パート等)	3	
6. 主な介護者以外の家族・親族が勤務形態を変えた(正職員→パート等)	0	
7. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない	267	251
8. わからない	4	2
未回答	0	11
	286	273

← 今回追加した項目

問8 現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービス(複数回答)

「利用していない」割合が最も高く、次いで、「移送サービス」、「サロンなどの定期的な通いの場」となっている。

		前回
1. 配食	21	29
2. 調理	8	6
3. 掃除・洗濯	8	2
4. 買い物(宅配は含まない)	6	4
5. ゴミ出し	12	10
6. 外出同行(買い物など)	4	6
7. 通院同行	18	13
8. 移送サービス(介護・福祉タクシー等)	38	68
9. 見守り、声かけ	22	11
10. サロンなどの定期的な通いの場	24	16
11. 認知症の人と家族の集い	0	0
12. その他	19	18
13. 利用していない	208	172
未回答	0	6
	388	361

問9 今後必要と感じる支援・サービス(複数回答)

「特になし」割合が最も高く、次いで、前回と同様、移送サービスに関するニーズが高い状況となっている。

		前回
1. 配食	38	33
2. 調理	27	19
3. 掃除・洗濯	28	19
4. 買い物(宅配は含まない)	30	21
5. ゴミ出し	24	17
6. 外出同行(買い物など)	25	22
7. 通院同行	40	36
8. 移送サービス(介護・福祉タクシー等)	56	48
9. 見守り、声かけ	38	44
10. サロンなどの定期的な通いの場	26	14
11. 認知症の人と家族の集い	3	5
12. その他	10	8
13. 特になし	191	156
未回答	0	10
	536	452

問10 施設等への入所・入居の検討状況

前回調査同様、検討していない方が最も多く、在宅での生活意向が高い。

			前回	
1. 入所・入居は検討していない	251	77.95%	234	77.74%
2. 入所・入居を検討している	34	10.56%	32	10.63%
3. すでに入所・入居申し込みをしている	37	11.49%	34	11.30%
未回答	0	0.00%	1	0.33%
322			301	

問11 本人が現在抱えている傷病(複数回答)

前回同様に「認知症」が最も多い。次いで、「脳血管疾患」、「心疾患」となっている。

		前回
1. 脳血管疾患(脳卒中)	92	56
2. 心疾患(心臓病)	70	79
3. 悪性新生物(がん)	31	19
4. 呼吸器疾患	26	21
5. 腎疾患(透析)	13	9
6. 筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)	63	59
7. 骨折・転倒	55	
8. フレイル・廃用症候群	46	
9. 膠原病(関節リウマチ含む)	8	8
10. 変形性関節疾患	49	43
11. 認知症	100	128
12. パーキンソン病	12	12
13. 難病(パーキンソン病を除く)	6	6
14. 糖尿病	52	49
15. 眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)	33	29
16. その他	56	67
17. なし	4	2
18. わからない	2	1
未回答	0	7

← 今回追加した項目

問12 訪問診療利用の有無

前回調査同様、利用度は低く、付き添い等により通院している割合が高い。

			前回	
1. 利用している	27	8.39%	24	7.97%
2. 利用していない	295	91.61%	273	90.70%
未回答	0	0.00%	4	1.33%
322			301	

問13 住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービス利用の有無

介護サービスを利用している方は、80%を超えている状況。サービスを未利用の方がサービスを利用しない理由は、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」が主な理由となっている。

			前回	
1. 利用している	285	88.51%	274	91.03%
2. 利用していない	37	11.49%	24	7.97%
未回答	0	0.00%	3	1.00%
322			301	

問14 介護保険サービスを利用していない理由(複数回答)

	前回	
1. 現状では、サービスを利用するほどの状態ではない	17	9
2. 本人にサービス利用の希望がない	17	11
3. 家族が介護をするため必要ない	4	4
4. 以前、利用していたサービスに不満があった	1	0
5. 利用料を支払うのが難しい	0	1
6. 利用したいサービスが利用できない、身近にない	0	0
7. 住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため	7	3
8. サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない	0	0
9. その他	6	3
未回答	0	5

【B票】 主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入いただく項目

問1 主な介護者の勤務形態

前回調査同様、働きながら介護をしている方の割合は合計で約60%の状況であった。

			前回	
1. フルタイムで働いている	122	42.81%	117	42.86%
2. パートタイムで働いている	50	17.54%	52	19.05%
3. 働いていない	105	36.84%	100	36.63%
4. 主な介護者に確認しないとわからない	8	2.81%	1	0.37%
未回答	0	0.00%	3	1.10%
		285	273	

→ 問2 介護のための働き方調整等(複数回答)

前回調査同様、働き方について特に行っていない回答が最も多い状況であった。

		前回
1. 特に行っていない	74	77
2. 労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)	50	44
3. 休暇(年休や介護休暇等)を取得	21	23
4. 在宅勤務を利用	1	5
5. 2～4以外の調整	24	2
6. 主な介護者に確認しないと、わからない	10	4
未回答	0	5
		180 160

→ 問3 勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思うか(3つまで回答)

「特にない」が最も多く、次いで、「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」、「わからない」となっている。

		前回
1. 自営業・フリーランス等のため、勤め先はない	41	33
2. 介護休業・介護休暇等の制度の充実	22	30
3. 制度を利用しやすい職場づくり	9	18
4. 労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)	21	29
5. 働く場所の多様化(在宅勤務・テレワークなど)	1	2
6. 仕事と介護の両立に関する情報の提供	6	5
7. 介護に関する相談窓口・相談担当者の設置	3	2
8. 介護をしている従業員への経済的な支援	14	21
9. その他	2	1
10. 特にない	59	43
11. 主な介護者に確認しないと、わからない	30	26
未回答	0	10

→ 問4 今後も働きながら介護を続けていけそうか

前回調査に比べ「問題なく続けていける」の回答数が増加している。

		前回
1. 問題なく、続けていける	65	43
2. 問題はあるが、何とか続けていける	73	94
3. 続けていくのは、やや難しい	2	5
4. 続けていくのは、かなり難しい	4	2
5. 主な介護者に確認しないとわからない	28	16
未回答	0	12
		172 172

問5 主な介護者が不安に感じる介護等(3つまで回答)

介護者が不安に思う介護は「認知症への対応」が最も多く、「夜間の排泄」、「日中の排泄」などであった。

		前回
1. 日中の排泄	69	54
2. 夜間の排泄	84	65
3. 食事の介助(食べる時)	11	14
4. 入浴・洗身	35	37
5. 身だしなみ(洗顔・歯磨き等)	8	7
6. 衣服の着脱	6	11
7. 屋内の移乗・移動	50	42
8. 外出の付き添い、送迎等	44	41
9. 服薬	16	19
10. 認知症状への対応	86	93
11. 医療面での対応(経管栄養、ストーマ 等)	12	9
12. 食事の準備(調理等)	32	29
13. その他の家事(掃除、洗濯、買い物 等)	19	20
14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き	6	14
15. その他	27	19
16. 不安に感じていることは、特にない	37	37
17. 主な介護者に確認しないと、わからない	38	21
未回答	0	7

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

【調査の目的】

この調査は「第10期北栄町介護保険事業計画・高齢者福祉計画」の策定にかかる基礎資料とするために実施し、高齢者の生活や心身の状況、介護予防・支援のニーズなどについて把握することを目的としています。

【調査対象者】

在宅で生活をされている65歳以上の人
(要介護1から5の認定を受けていない人)

【調査方法・時期】

対象者に郵送で案内し、調査票を回収
令和8年4月下旬～5月末までの期間で実施

【回収結果】

調査件数	回収件数	回収率
4,592	2,624	57.14%

年齢構成	人数	割合
65～69歳	497	18.94%
70～74歳	635	24.20%
75～79歳	724	27.59%
80～84歳	393	14.98%
85～89歳	242	9.22%
90歳以上	118	4.50%
その他	15	0.57%
計	2,624	100.0%

前回:2,839人

調査票に記入をした者

本人	2,423	92.34%
ご家族	173	6.59%
その他	1	0.04%
不明	27	1.03%

2,624

【問1】あなたのご家族や生活状況について

(1)家族構成 は前回調査から大きな変化はない。

			前回	
1人暮らし	395	15.05%	399	14.05%
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	871	33.19%	890	31.35%
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	79	3.01%	94	3.31%
息子・娘との2世帯	843	32.13%	886	31.21%
その他	400	15.24%	516	18.18%
未回答	36	1.37%	54	1.90%
	2,624		2,839	

(2)介護・介助が必要か については、前回に比べ必要ない割合が増えている。

			前回	
1. 介護・介助は必要ない	2,320	88.41%	2,451	86.33%
2. 介護・介助は必要だが、受けていない	133	5.07%	177	6.23%
3. 何らかの介護を受けている	120	4.57%	138	4.86%
未回答	51	1.94%	73	2.57%
	2,624		2,839	

→ (2-1)介護・介助が必要になった主な原因(複数回答)

		前回
1. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	20	23
2. 心臓病	17	18
3. がん(悪性新生物)	7	8
4. 呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等)	11	5
5. 関節の病気(リウマチ等)	8	19
6. 認知症(アルツハイマー病等)	10	18
7. パーキンソン病	5	3
8. 糖尿病	9	14
9. 腎疾患(透析)	4	2
10. 視覚・聴覚障害	9	13
11. 骨折・転倒	26	33
12. 脊椎損傷	9	7
13. 高齢による衰弱	32	42
14. その他	19	17
15. 不明	1	3
未回答	48	73

→ (2-2)主な介護・介助者(複数回答)

		前回
1. 配偶者(夫・妻)	42	35
2. 息子	35	38
3. 娘	40	48
4. 子の配偶者	17	24
5. 孫	9	10
6. 兄弟・姉妹	3	3
7. 介護サービスのヘルパー	22	28
8. その他	14	25
未回答	57	74

(3)暮らしの状況 については、前回調査と大きな変化はない。

			前回	
1. 大変苦しい	154	5.87%	182	6.41%
2. やや苦しい	601	22.90%	641	22.58%
3. ふつう	1,642	62.58%	1,738	61.22%
4. ややゆとりがある	151	5.75%	164	5.78%
5. 大変ゆとりがある	19	0.72%	19	0.67%
未回答	57	2.17%	95	3.35%
	2,624		2,839	

(4)住まい については、持ち家(一戸建て)が95.43%で最多であった。

			前回	
1. 持家(一戸建て)	2,504	95.43%	2,688	94.68%
2. 持家(集合住宅)	13	0.50%	9	0.32%
3. 公営賃貸住宅	20	0.76%	21	0.74%
4. 民間賃貸住宅(一戸建て)	2	0.08%	8	0.28%
5. 民間賃貸住宅(集合住宅)	9	0.34%	11	0.39%
6. 借家	14	0.53%	18	0.63%
7. その他	20	0.76%	20	0.70%
未回答	42	1.60%	64	2.25%
	2,624		2,839	

【問2】 からだを動かすことについて

(1)階段を手すりや壁をつたわず昇れるか については、前回調査と大きな変化はない。

			前回	
1. できるし、している	1,501	57.20%	1,626	57.27%
2. できるけどしていない	570	21.72%	575	20.25%
3. できない	496	18.90%	529	18.63%
未回答	57	2.17%	109	3.84%
2,624			2,839	

(2)椅子からつかまらずに立てるか については、できる割合が前回調査より増加した。

			前回	
1. できるし、している	1,979	75.42%	2,083	73.37%
2. できるけどしていない	304	11.59%	315	11.10%
3. できない	291	11.09%	362	12.75%
未回答	50	1.91%	79	2.78%
2,624			2,839	

(3)15分位続けて歩いているか については、前回調査と大きな変化はない。

			前回	
1. できるし、している	1,685	64.21%	1,835	64.64%
2. できるけどしていない	629	23.97%	630	22.19%
3. できない	267	10.18%	299	10.53%
未回答	43	1.64%	75	2.64%
2,624			2,839	

(4)過去1年間に転んだか については、前回調査と大きな変化はない。

			前回		今回		前回	
1. 何度もある	289	11.01%	303	10.67%	808	30.8%	844	29.7%
2. 1度ある	519	19.78%	541	19.06%				
3. ない	1,779	67.80%	1,924	67.77%				
未回答	37	1.41%	71	2.50%				
2,624			2,839					

(5)転倒に対する不安 については、不安と思う方の割合が若干増加した。

			前回		今回		前回	
1. とても不安	335	12.77%	362	12.75%	1,299	49.5%	1,322	46.6%
2. やや不安	964	36.74%	960	33.81%				
3. あまり不安でない	806	30.72%	891	31.38%				
4. 不安でない	471	17.95%	548	19.30%				
未回答	48	1.83%	78	2.75%				
2,624			2,839					

(6)外出の頻度 については、前回調査より全体的に改善傾向にあるが、引き続き外出頻度を上げる取り組みを継続する必要がある。

			前回	
1. ほとんど外出しない	113	4.31%	141	4.97%
2. 週1回	257	9.79%	322	11.34%
3. 週2～4回	955	36.39%	1,021	35.96%
4. 週5回以上	1,260	48.02%	1,302	45.86%
未回答	39	1.49%	53	1.87%
2,624			2,839	

(7)昨年と比べて外出回数が減っているか については、前回調査より若干の改善傾向にある。

			前回	
1. とても減っている	82	3.13%	87	3.06%
2. 減っている	418	15.93%	509	17.93%
3. あまり減っていない	890	33.92%	942	33.18%
4. 減っていない	1,200	45.73%	1,255	44.21%
未回答	34	1.30%	46	1.62%
2,624			2,839	

→ (7-1)回数が減っている理由(複数回答)

		前回
1. 病気	72	93
2. 障がい(脳卒中の後遺症など)	12	16
3. 足腰などの痛み	240	305
4. トイレの心配(失禁など)	62	66
5. 耳の障がい(聞こえの問題など)	43	59
6. 目の障がい	39	40
7. 外での楽しみがない	96	120
8. 経済的に出られない	48	55
9. 交通手段がない	74	103
10. その他	85	112
未回答	62	65

(8)外出時の移動手段(複数回答) については、前回調査と同様、自分で運転するか否かを問わず、自動車が移動に不可欠であることがわかる。

		前回
1. 徒歩	869	923
2. 自転車	287	391
3. バイク	32	35
4. 自動車(自分で運転)	2,005	2,072
5. 自動車(人に乗せてもらう)	582	643
6. JR	100	104
7. 路線バス	121	144
8. 病院や施設のバス	26	50
9. 車いす	7	3
10. 電動いす(カート)	9	14
11. 歩行器・シルバーカー	46	78
12. タクシー	177	270
13. その他	16	14
未回答	48	72

【問3】 食べることについて

(1)身長・体重 ※省略

(2)半年前に比べて固いものが食べにくくなったか については、前回調査と大きな変化はない。

			前回	
1. はい	799	30.45%	853	30.05%
2. いいえ	1,768	67.38%	1,904	67.07%
未回答	57	2.17%	82	2.89%
2,624			2,839	

(3)お茶や汁物等でむせることがあるか については、前回調査と大きな変化はない。

			前回	
1. はい	620	23.63%	662	23.32%
2. いいえ	1,955	74.50%	2,094	73.76%
未回答	49	1.87%	83	2.92%
2,624			2,839	

(4)口の渇きが気になるか については、気になる方の割合が若干増加。

			前回	
1. はい	642	24.47%	623	21.94%
2. いいえ	1,932	73.63%	2,130	75.03%
未回答	50	1.91%	86	3.03%
2,624			2,839	

(5)歯磨きを毎日しているか については、前回調査に比べ改善傾向にある。

			前回	
1. はい	2,407	91.73%	2,553	89.93%
2. いいえ	163	6.21%	209	7.36%
未回答	54	2.06%	77	2.71%
2,624			2,839	

(6)歯の数と入れ歯の利用状況 については、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」の割合が増加。

入れ歯の手入れをしている方の割合も前回に比べ増加。

					前回	
1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用	332	12.65%	299	10.53%		
2. 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし	740	28.20%	739	26.03%		
3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用	1,137	43.33%	1,261	44.42%		
4. 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし	292	11.13%	345	12.15%		
未回答	123	4.69%	195	6.87%		
2,624					2,839	

(6-1)噛み合わせは良好か

			前回	
1. はい	2,113	80.53%	1,259	80.71%
2. いいえ	397	15.13%	263	16.86%
未回答	114	4.34%	38	2.44%
2,624			1,560	

※前回は(6)で1と3の回答があった人の数値

→ (6-2)毎日入れ歯の手入れをしているか

			前回	
1. はい	1,335	90.88%	1,365	87.50%
2. いいえ	99	6.74%	85	5.45%
未回答	35	2.38%	110	7.05%
1,469			1,560	

(7)定期的に歯科健康診査(治療以外の口腔内チェック)や歯科受診をしているか

1. はい	1,004	38.26%	※今回追加した調査項目	
2. いいえ	1,577	60.10%		
未回答	43	1.64%		
2,624				

(8)6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか については、減少がなかった方の割合が増加。

			前回	
1. はい	266	10.14%	317	11.17%
2. いいえ	2,293	87.39%	2,386	84.04%
未回答	65	2.48%	136	4.79%
2,624			2,839	

(9)誰かと食事をとにもする機会はあるか については、「ほとんどない」割合が減少し、誰かと食事をする機会は増えている。

			前回	
1. 毎日ある	1,701	64.82%	1,767	62.24%
2. 週に何度かある	162	6.17%	206	7.26%
3. 月に何度かある	275	10.48%	250	8.81%
4. 年に何度かある	266	10.14%	281	9.90%
5. ほとんどない	168	6.40%	241	8.49%
未回答	52	1.98%	94	3.31%
2,624			2,839	

【問4】 毎日の生活について

(1)物忘れが多いと感じるか については、前回調査と大きな変化はない。

			前回	
1. はい	999	38.07%	1,091	38.43%
2. いいえ	1,540	58.69%	1,668	58.75%
未回答	85	3.24%	80	2.82%
2,624			2,839	

(2)自分で電話番号を調べて電話をかけるか については、前回調査と大きな変化はない。

			前回	
1. はい	2,259	86.09%	2,493	87.81%
2. いいえ	297	11.32%	284	10.00%
未回答	68	2.59%	62	2.18%
2,624			2,839	

(3)今日が何月何日かわからない時があるか については、前回よりも「いいえ」の割合が増加。

			前回	
1. はい	555	21.15%	637	22.44%
2. いいえ	1,999	76.18%	2,091	73.65%
未回答	70	2.67%	111	3.91%
2,624			2,839	

(4)周りの人から物忘れがあるとと言われるか については、前回調査と大きな変化はない。

			前回	
1. はい	293	11.17%	329	11.59%
2. いいえ	2,253	85.86%	2,402	84.61%
未回答	78	2.97%	108	3.80%
2,624			2,839	

(5)バスやJRを使って1人で外出しているか(自家用車でも可) については、「できるし、している」割合が増加。

			前回	
1. できるし、している	1,973	75.19%	2,092	73.69%
2. できるけどしていない	393	14.98%	416	14.65%
3. できない	191	7.28%	209	7.36%
未回答	67	2.55%	122	4.30%
2,624			2,839	

(6)自分で食品・日用品の買物をしているか については、「できるけどしていない」割合が減少し「できるし、している」割合が増加。

			前回	
1. できるし、している	2,188	83.38%	2,276	80.17%
2. できるけどしていない	271	10.33%	348	12.26%
3. できない	105	4.00%	121	4.26%
未回答	60	2.29%	94	3.31%
2,624			2,839	

(7)自分で食事の用意をしているか については、「できるけどしていない」割合が減少し「できるし、している」割合が増加。

			前回	
1. できるし、している	1,844	70.27%	1,904	67.07%
2. できるけどしていない	516	19.66%	613	21.59%
3. できない	206	7.85%	223	7.85%
未回答	58	2.21%	99	3.49%
2,624			2,839	

(8)自分で請求書の支払いをしているか については、「できるけどしていない」割合が減少し「できるし、している」割合が増加。

			前回	
1. できるし、している	2,207	84.11%	2,340	82.42%
2. できるけどしていない	261	9.95%	306	10.78%
3. できない	95	3.62%	92	3.24%
未回答	61	2.32%	101	3.56%
2,624			2,839	

(9)自分で預貯金のおし入れをしているか については、「できるけどしていない」割合が減少し「できるし、している」割合が増加。

			前回	
1. できるし、している	2,215	84.41%	2,322	81.79%
2. できるけどしていない	271	10.33%	317	11.17%
3. できない	90	3.43%	105	3.70%
未回答	48	1.83%	95	3.35%
2,624			2,839	

(10)健康についての記事や番組に関心があるか については、前回調査と大きな変化はない。

			前回	
1. はい	2,276	86.74%	2,426	85.45%
2. いいえ	289	11.01%	314	11.06%
未回答	59	2.25%	99	3.49%
2,624			2,839	

(11)友人の家を訪ねているか については、訪ねている割合が増加。

			前回	
1. はい	1,473	56.14%	1,512	53.26%
2. いいえ	1,081	41.20%	1,218	42.90%
未回答	70	2.67%	109	3.84%
2,624			2,839	

(12)家族や友人の相談にのっているか については、相談にのっている割合が増加。

			前回	
1. はい	1,930	73.55%	2,011	70.83%
2. いいえ	608	23.17%	678	23.88%
未回答	86	3.28%	150	5.28%
2,624			2,839	

(13)趣味はあるか については、「趣味があり現在もしている」割合が増加。

			前回	
1. 趣味があり現在もしている	1,774	67.61%	1,844	64.95%
2. 趣味はある(あった)が、していない	578	22.03%	650	22.90%
3. 思いつかない	208	7.93%	236	8.31%
未回答	64	2.44%	109	3.84%
2,624			2,839	

→ (13-1)趣味は次のどれか(複数回答)

			前回	
1. 旅行、観光	658	10.65%	635	9.37%
2. アウトドア(登山、釣りなどを含む)	240	3.88%	304	4.48%
3. 運動(ゴルフ、グラウンドゴルフを含む)	644	10.42%	710	10.47%
4. ガーデニング(せん定を含む)、盆栽	718	11.62%	830	12.24%
5. 家庭菜園、農業	1,049	16.98%	1,188	17.52%
6. カラオケ	121	1.96%	151	2.23%
7. 読書、音楽、映画鑑賞	791	12.80%	841	12.40%
8. 脳トレ(クロスワードパズル、ナンプレ等)	689	11.15%	669	9.87%
9. 料理、お菓子作り	396	6.41%	434	6.40%
10. 手芸	399	6.46%	472	6.96%
11. その他	372	6.02%	422	6.22%
未回答	102	1.65%	124	1.83%
6,179			6,780	

(14)生きがいはあるか については、「生きがいあり」の割合が増加。主なものは、趣味を満喫、人との交流、孫の成長など。

			前回	
1. 生きがいあり	1,442	54.95%	1,316	46.35%
2. 思いつかない	888	33.84%	873	30.75%
未回答	294	11.20%	650	22.90%
2,624			2,839	

【問5】地域での活動について

(1)以下の会・グループへの参加頻度

①ボランティアのグループ については、参加している割合(18.75%)が若干増加(前回16.77%)。

			前回	
1. 週4回以上	16	0.61%	17	0.60%
2. 週2～3回	28	1.07%	20	0.70%
3. 週1回	32	1.22%	32	1.13%
4. 月1～3回	138	5.26%	124	4.37%
5. 年に数回	278	10.59%	283	9.97%
6. 参加していない	1,382	52.67%	1,389	48.93%
未回答	750	28.58%	974	34.31%
2,624			2,839	

②スポーツ関係のグループやクラブ については、参加している割合(23.21%)が若干増加(前回20.57%)。

			前回	
1. 週4回以上	62	2.36%	59	2.08%
2. 週2～3回	174	6.63%	184	6.48%
3. 週1回	128	4.88%	104	3.66%
4. 月1～3回	106	4.04%	119	4.19%
5. 年に数回	139	5.30%	118	4.16%
6. 参加していない	1,344	51.22%	1,368	48.19%
未回答	671	25.57%	887	31.24%
2,624			2,839	

③趣味関係のグループ については、参加している割合(25.23%)が若干増加(前回21.28%)。

			前回	
1. 週4回以上	29	1.11%	25	0.88%
2. 週2～3回	81	3.09%	87	3.06%
3. 週1回	101	3.85%	93	3.28%
4. 月1～3回	249	9.49%	239	8.42%
5. 年に数回	202	7.70%	160	5.64%
6. 参加していない	1,254	47.79%	1,319	46.46%
未回答	708	26.98%	916	32.26%
2,624			2,839	

④学習・教養サークル については、参加している割合(10.02%)が若干増加(前回7.93%)。

			前回	
1. 週4回以上	5	0.19%	5	0.18%
2. 週2～3回	12	0.46%	11	0.39%
3. 週1回	34	1.30%	22	0.77%
4. 月1～3回	86	3.28%	69	2.43%
5. 年に数回	126	4.80%	118	4.16%
6. 参加していない	1,509	57.51%	1,524	53.68%
未回答	852	32.47%	1,090	38.39%
2,624			2,839	

⑤介護予防のための通いの場 については、参加している割合(22.68%)が若干増加(前回19.23%)。

			前回	
1. 週4回以上	32	1.22%	27	0.95%
2. 週2～3回	69	2.63%	55	1.94%
3. 週1回	115	4.38%	136	4.79%
4. 月1～3回	235	8.96%	186	6.55%
5. 年に数回	144	5.49%	142	5.00%
6. 参加していない	1,431	54.54%	1,438	50.65%
未回答	598	22.79%	855	30.12%
2,624			2,839	

⑥老人クラブ については、参加している割合(14.67%)が若干増加(前回13.1%)。

			前回	
1. 週4回以上	4	0.15%	7	0.25%
2. 週2～3回	13	0.50%	7	0.25%
3. 週1回	13	0.50%	7	0.25%
4. 月1～3回	63	2.40%	71	2.50%
5. 年に数回	292	11.13%	280	9.86%
6. 参加していない	1,538	58.61%	1,519	53.50%
未回答	701	26.71%	948	33.39%
2,624			2,839	

⑦町内会・自治会 については、参加している割合(50.53%)が増加(前回41.07%)。

			前回	
1. 週4回以上	13	0.50%	12	0.42%
2. 週2～3回	11	0.42%	13	0.46%
3. 週1回	22	0.84%	16	0.56%
4. 月1～3回	192	7.32%	161	5.67%
5. 年に数回	1,088	41.46%	964	33.96%
6. 参加していない	687	26.18%	777	27.37%
未回答	611	23.29%	896	31.56%
2,624			2,839	

⑧収入のある仕事 については、参加している割合(32.77%)が若干増加(前回29.87%)。

			前回	
1. 週4回以上	462	17.61%	432	15.22%
2. 週2～3回	140	5.34%	133	4.68%
3. 週1回	38	1.45%	35	1.23%
4. 月1～3回	77	2.93%	80	2.82%
5. 年に数回	143	5.45%	168	5.92%
6. 参加していない	1,106	42.15%	1,110	39.10%
未回答	658	25.08%	881	31.03%
2,624			2,839	

(2)有志の活動に対する参加者としての参加意思 については、意思がある割合(47.83%)が若干増加(前回46.5%)。
既に参加している割合も増加。

			前回	
1. 是非参加したい	136	5.18%	153	5.39%
2. 参加してもよい	1,119	42.64%	1,167	41.11%
3. 参加したくない	891	33.96%	945	33.29%
4. 既に参加している	247	9.41%	203	7.15%
未回答	231	8.80%	371	13.07%
2,624			2,839	

(3)有志の活動に対する企画・運営としての参加意思 については、意思がある割合(27.99%)が増加(前回24.55%)。

			前回	
1. 是非参加したい	34	1.30%	46	1.62%
2. 参加してもよい	700	26.70%	651	22.93%
3. 参加したくない	1,465	55.87%	1,540	54.24%
4. 既に参加している	160	6.10%	182	6.41%
未回答	263	10.03%	420	14.79%
2,622			2,839	

【問6】 たすけあいについて

(1)心配事や愚痴を聞いてくれる人(複数回答)

		前回
1. 配偶者	1,417	1,506
2. 同居の子ども	672	700
3. 別居の子ども	889	951
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	867	974
5. 近隣	370	344
6. 友人	1,086	1,101
7. その他	47	56
8. そのような人はいない	87	115
未回答	142	153
5,577		5,900

(2)心配事や愚痴を聞いてあげる人(複数回答)

		前回
1. 配偶者	1,342	1,414
2. 同居の子ども	570	597
3. 別居の子ども	784	825
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	912	981
5. 近隣	431	462
6. 友人	1,086	1,127
7. その他	29	42
8. そのような人はいない	144	192
未回答	179	215
5,477		5,855

(3)看病や世話をしてくれる人(複数回答)

「心配事など話を聞いてくれる」と比べ、病気の時の看病や世話になると家族や親戚といった身内の割合が高く、家族等が重要な役割となっている。

		前回
1. 配偶者	1,505	1,646
2. 同居の子ども	884	999
3. 別居の子ども	734	793
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	426	501
5. 近隣	59	60
6. 友人	106	131
7. その他	39	46
8. そのような人はいない	150	148
未回答	148	171
4,051		4,495

(4)看病や世話をしあける人(複数回答)

		前回
1. 配偶者	1,536	1,659
2. 同居の子ども	727	777
3. 別居の子ども	557	590
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	643	719
5. 近隣	84	100
6. 友人	151	164
7. その他	35	41
8. そのような人はいない	317	338
未回答	212	271
	4,262	4,659

(5)家族や友人・知人以外で相談する相手(複数回答)

「いない」と回答した方が前回同様一定数あり、今後も困りごとの相談窓口の啓発・発信を継続して実施する必要がある。

		前回
1. 自治会・町内会・老人クラブ	342	328
2. 社会福祉協議会・民生委員	408	493
3. ケアマネジャー	144	132
4. 医師・歯科医師・看護師	819	890
5. 地域包括支援センター・役場	507	484
6. その他	154	156
7. そのような人はいない	794	774
未回答	324	453
	3,492	3,710

【問7】健康について

(1)現在のあなたの健康状態

現在の健康感が「とてもよい」、「まあよい」合わせて良好だと感じている方は75.23%で前回調査(74.78%)より微増した。

			前回	
1. とてもよい	192	7.32%	217	7.64%
2. まあよい	1,782	67.91%	1,906	67.14%
3. あまりよくない	413	15.74%	469	16.52%
4. よくない	71	2.71%	74	2.61%
未回答	166	6.33%	173	6.09%
	2,624		2,839	

(2)幸福度

現在の幸福度は、10点を満点として、「8点」が最も多く、次いで上位は「5点」、「7点」、「10点」、「9点」、「6点」の順であった。

5点以上の方がほとんどを占めており、全般的に幸せだと感じている方が多かった。

	平均: 7.15 点		前回	
0点(とても不幸)	11.0	0.42%	12.0	0.42%
1点	9.0	0.34%	15.0	0.53%
2点	18.0	0.69%	15.0	0.53%
3点	48.0	1.83%	50.5	1.78%
4点	69.0	2.63%	73.5	2.59%
5点	463.0	17.64%	508.0	17.89%
6点	226.5	8.63%	240.0	8.45%
7点	374.0	14.25%	419.0	14.76%
8点	624.0	23.78%	600.5	21.15%
9点	250.5	9.55%	267.5	9.42%
10点(とても幸せ)	337.0	12.84%	398.0	14.02%
未回答	194.0	7.39%	240.0	8.45%
	2,624		2,839	

平均: 7.15 点

※2個まとめて○や、数字と数字の間に○がある場合、両者の人数を0.5人ずつとして計上した。

(3)この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか については、前回調査と大きな変化はない。

			前回	
1. はい	757	28.85%	823	28.99%
2. いいえ	1,685	64.21%	1,818	64.04%
未回答	182	6.94%	198	6.97%
2,624			2,839	

(4)この1か月間、興味がわからない、心から楽しめない感じがあったか については、前回調査より若干増加した。

			前回	
1. はい	491	18.71%	500	17.61%
2. いいえ	1,950	74.31%	2,104	74.11%
未回答	183	6.97%	235	8.28%
2,624			2,839	

(5)タバコは吸っているか(電子タバコを含む) については、吸っている方の割合は、前回調査より若干減少した。

			前回	
1. ほぼ毎日吸っている	172	6.55%	202	7.12%
2. 時々吸っている	22	0.84%	18	0.63%
3. 吸っていたがやめた	697	26.56%	752	26.49%
4. もともと吸っていない	1,569	59.79%	1,672	58.89%
未回答	164	6.25%	195	6.87%
2,624			2,839	

(6)現在治療中、または後遺症のある病気はあるか(複数回答)

治療中または後遺症のある病気の有無について、「高血圧」が最も多く、次いで「目の病気」、「高脂血症(脂質異常)」の順であった。

		前回
1. ない	360	374
2. 高血圧	1,183	1,183
3. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	99	107
4. 心臓病	205	225
5. 糖尿病	365	405
6. 高脂血症(脂質異常)	387	381
7. 呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)	153	150
8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気	150	191
9. 腎臓・前立腺の病気	213	179
10. 筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)	334	367
11. 外傷(転倒・骨折等)	62	62
12. がん(悪性新生物)	113	132
13. 血液・免疫の病気	40	34
14. うつ病	32	37
15. 認知症(アルツハイマー病等)	19	24
16. パーキンソン病	7	12
17. 目の病気	438	479
18. 耳の病気	123	126
19. その他	250	259
未回答	181	259

【問8】

(1)認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるか

			前回	
1. はい	245	9.34%	273	9.62%
2. いいえ	2,235	85.18%	2,366	83.34%
未回答	144	5.49%	200	7.04%
2,624			2,839	

→ (1-1)認知症の症状があることを専門機関に相談しているか

			前回	
1. はい	168	68.57%	181	66.30%
2. いいえ	75	30.61%	81	29.67%
未回答	2	0.82%	11	4.03%
245			273	

(2)認知症に関する相談窓口を知っているか

認知症対策で最も重要な早期診断・早期治療のためにも、まずは相談してもらうことが重要であり、相談窓口の周知を継続して行う必要がある。

			前回	
1. はい	909	34.64%	939	33.08%
2. いいえ	1,181	45.01%	1,229	43.29%
未回答	534	20.35%	671	23.64%
2,624			2,839	

第10期計画策定について

見直しのポイント（案）

○介護サービス基盤の計画的な整備

- ① 介護保険事業（支援）計画の策定
 - ・ 中長期的な地域の人口動態や介護ニーズの見込み等を適切に捉えて、都道府県と市町村が2040年度を見据えた中長期的な推計を実施し、共通の課題認識を持った上で、地域の関係者を含めてサービス提供体制の在り方を検討。
 - ・ 計画策定における都道府県の関与や医療・介護連携の強化等のため、計画の策定過程における議論のプロセスを整理。
 - ・ 計画策定に当たって都道府県・市町村や関係者が確認すべき指標や状況の提示等により、地域の現状把握・分析や計画策定を支援。
- ② 地域の実情に応じたサービス提供体制の構築
 - ・ 地域の類型（中山間・人口減少地域、大都市部、一般市等）を念頭に置いた計画策定。中山間・人口減少地域においては、関係者の意見を聞きながら、必要な対応（人材確保や生産性向上等の施策、新たな類型を含む特例介護サービスの活用等）について議論。
 - ・ 医療との連携状況や有料老人ホーム等の高齢者向け住まいの入居の状況等を踏まえたサービス提供体制の構築。

○地域包括ケアシステムの深化

- ① 総合事業の多様なサービス・活動の充実に向け、多様な主体とのつながりづくり等の更なる支援や質の向上を図るための分析・評価等を推進。
- ② 頼れる身寄りがいない高齢者等の生活ニーズを地域課題として解決するため、関係者を含めて地域全体で対応を協議し、切れ目のない支援が提供される地域づくりを推進。
- ③ 認知症基本法及び認知症施策推進基本計画を踏まえた取組の推進。

○介護人材確保と職場環境改善に向けた生産性向上、経営改善支援等

- ① 都道府県が主体となって介護人材確保に関するプラットフォームを構築するとともに、生産性向上等の取組の促進を図るための協議会を設置し、地域の関係者が協働して課題解決に向けた実践的な取組を推進。
- ② テクノロジーの更なる活用等による生産性向上や、協働化・大規模化の推進等による経営基盤の強化等を推進。

10

厚生労働省資料（社会保障審議会介護保険部会（第135回））抜粋

第9期事業計画で取り組んできた介護予防施策により、介護認定率の維持等できていることから、第10期事業計画においてもこれまでの施策を継続して取り組む方向とし、上記ポイントもふまえて計画を策定していく。